古石ひでさと4期目に向かっての議会活動

ひでさと 古石 後援会だより

URL：http://古石.com/

第　3920号
発行令和３年１１月
古石　ひでさと後援会事務所
岩見沢市幌向南１条１丁目
TEL　２６－２２２６

市政についてご提案、ご意見などがありましたらお聞かせください。

E-mail-furuishi@gray-plala.or.jp

燃料高騰　家計　会社にずしり

燃料高騰 家計にずしり

「節約限界」「どこまで上がる」

銭湯や運送業 経営圧迫も

灯油やガソリンなど石油製品の高騰が道内の暮らしを脅かしている。経済産業省が4日発表した道内の灯油配達価格は6週連続、ガソリン小売価格は9週連続で値上がり。特に灯油は1世帯当たりの負担額が昨冬より1万5千円以上増えるとの試算もあり、深刻だ。燃料代の上昇は銭湯やトラック業界の経営も圧迫している。（1面参照）

札幌市中央区のガソリンスタンドで灯油を給油する利用者＝4日午後5時10分ごろ（金田淳撮影）

「暖房も給湯も灯油だから、灯油高が一番痛い」。自宅で毎冬2千㍑ほど使うという札幌市豊平区の米村建二さん(78)は諦め顔だ。道内の平均配達価格は1㍑換算で108円を超えたが、1人暮らしで収入は月約16万円の年金のみ。高値が続けば、昨冬より数万円負担が増えそうで「節約して使用量を減らすのはもう限界。価格アップがそのまま支出増になる」と嘆いた。

同区の主婦田辺喜美子さん(87)は「値段はどこまで上がるのか」と心配する。50代の息子と暮らす築50年を超えた一戸建て住宅は「新築と比べて断熱材が薄くて寒い」と言い、冬場は就寝後も灯油ストーブを消さない。灯油代を抑えるため、配達から単価の安いセルフ給油に切り替え、息子に運んでもらっている。

北海道消費者協会によると、今冬の灯油代は2人以上世帯の平均で1万5千円以上高くなるとの試算もあり、畠山京子会長(70)は「新型コロナウイルス禍で収入が途絶えたり、職を失ったりした人には大変な問題」と指摘する。同協会は10月、適正な価格での安定的供給を支える施策を国に要請。畠山会長は「小売業者には少量買いにも快く対応してほしい」と話す。

ガソリン高騰も家計を圧迫している。4日午後、同市中央区の給油所を訪れたパート中島光子さん(37)は燃料代節約で「買い物に行く回数を減らしている」。給油所の島谷善和所長(43)は「来店する台数に大きな変化はないが、数量は出ていない。この傾向はしばらく続く」とみる。

銭湯も重油価格の上昇に頭を抱える。仕入れ値は10月20日に1㍑当たり7円上がったが、道が料金の上限を決めるため、迅速な価格転嫁は難しい。119軒が加盟する北海道公衆浴場業生活衛生同業組合の小西広幸理事長(72)は「経営難で銭湯が減ればお客に迷惑がかかる。道や国に助成措置を求めたい」と話す。

軽油の道内平均小売価格は1㍑151円60銭と昨年の同時期より3割ほど値上がりし、トラック運送業者の経営を直撃。コロナ禍による人件費高騰もあり「三重苦」の状態だが、所有台数が5～10台の中小業者が大半で荷主に対する立場が弱く、価格転嫁は至難だ。約2800社が加盟する北海道トラック協会の工藤修二会長(75)は「多くが赤字なのに事業を続けているのは、コロナ対策の緊急融資のおかげ。荷主は窮状を知ってほしい」と訴える。（内山岳志、田中雅久、森川純）

1　16版　2021年（令和3年）11月5日（金曜

道内ガソリン170円迫る

168円60銭 9週連続上昇

経済産業省が4日発表した1日時点のレギュラーガソリン1㍑当たりの道内平均小売価格は、10月25日時点の前回調査と比べて1円60銭高い168円60銭だった。原油価格高騰を受けて9週連続で値上がりし、2014年7月以来7年4カ月ぶりの高値となった。産油国が4日に原油の追加増産を見送ったため、今後は170円台に達する可能性もある。（12面＝原油増産見送り、16面＝室内防寒に注目、33面＝家計にずしり）

灯油の配達価格は1㍑換算で4円39銭高い108円67銭と、08年10月以来13年1カ月ぶりの高値だった。

新型コロナウイルス流行で停滞した経済活動の正常化が世界的に進み、原油需要が高まる一方、主要産油国は感染再拡大への懸念から追加増産を見送ってきた。需給は逼迫して原油価格は高値で推移し、ガソリン価格などに転嫁されている。

石油情報センターによると、米国の原油在庫が市場予想を大幅に上回り、原油価格がいったん落ち着きつつあるため、来週は小幅な値下がりが予想される。ただ、石油輸出国機構（OPEC）と非加盟の産油国でつくる「OPECプラス」が、日米などが求めていた追加増産を4日の閣僚級会合で見送ったことで、冬場にかけて価格がさらに上がる恐れもある。

全国平均小売価格は、レギュラーガソリン1㍑当たりが前回調査より1円40銭高い168円70銭、灯油の配達価格は1円84銭高い116円56銭だった。（佐々木馨斗）

灯油高騰 室内防寒に注目

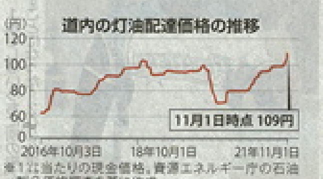
暖房費節約でも快適

暖房のスイッチに手が伸びる時期に入ったが、灯油価格の高騰が家計を直撃している。消費者の節約志向が高まっているようで、窓に貼る断熱シートや、袖が付いており体をすっぽり包み込む「着る毛布」などの室内防寒対策グッズの売れ行きがいい。テレワークで重宝する、机の下の足元を囲うタイプの断熱ボードなど、コロナ下ならではの商品にも注目が集まっている。（1面参照）

「これから冬になるのに、灯油価格がいつまで上がり続けるのか心配。部屋の隙間風をしっかり防いで、暖房費はできる限り節約したい」。札幌市内のホームセンターを訪れた会社員、北嶋京美さん(51)は、ドアの下などに貼り付けて隙間風を防ぐテープを品定めしていた。

3年ぶり100円超

経済産業省資源エネルギー庁の委託を受け石油製品価格を調査している石油情報センター（東京）によると、道内の灯油配達価格は10月11日、2018年11月以来3年ぶりに1㍑当たり100円を超えた。11月1日時点で前年同期比29円増の109円。道内最大の灯油共同購入団体コープさっぽろ（札幌）は1日、定期配達の灯油価格を全道一律で1㍑当たり8円引き上げ、各地域の価格は107～110円となった。



※1㍑当たりの現金価格。資源エネルギー庁の石油製品価格調査を基に作成

断熱グッズ人気

DCMホーマック発寒追分通店（札幌市西区）では、断熱ボードや断熱シートの売り上げはそれぞれ、昨年の同じ時期に比べて3割増加している。

「冷気は、窓やドアの隙間から室内に流れ込むほか、冷やされた窓全体からも伝わります。断熱ボードや断熱シートは、冷気を防ぐ一方、室内の熱を逃さない効果も期待できます」と、同店店次長の段部大幹さん(46)。

断熱ボードは窓に立てかけたり、テーブルやベッドの側などを囲うように置いたりして使うことで、低い位置を移動してくる冷気を防ぐ。今季の新商品は、膝から下を囲うように置けるタイプだ。家でのデスクワークや、夜遅くまで頑張る受験勉強にちょうどよいと、注目を集めている。

断熱シートは、窓ガラスに霧吹きで水を吹きかけて貼るタイプを手に取る人が多い。貼るスペースを窓半分くらいにとどめている家もあるが、段部さんによると、「窓全面に貼ると断熱効果を高めることができる」という。同店のお薦めはシートの厚さが7㍉、通常の約1・5倍のものだ。

㊤室内用の断熱グッズが並ぶDCMホーマック発寒追分通店の売り場（村本典之撮影）
㊦「着る毛布」や温熱効果をうたう靴下が人気の札幌ロフト（中村祐子撮影）

「着る毛布」好調

札幌ロフト（同市中央区）の売り場で目を引くのが「着る毛布」。素材はポリエステルで一般的なガウンよりも毛足が長めで、厚みもあり、保温性が高いという。数年前に人気に火が付いた。同店ではコロナ下、自宅で過ごす「おうち時間」を快適にするアイテム―と提案に力を入れ、売り上げは昨年同時期より3～5割伸びている。

「温熱効果」をうたう靴下や、レッグウオーマーも出足がいいという。企画担当の松永俊さん(62)は「灯油高で例年よりも暖房の使用を遅らせたり、暖房の温度設定を低くしたりする人が多いからでは」と、好調な理由を分析している。（飛谷知憲）

あすの「週刊まなぶん」

今井編集長おすすめ！

海外記者ニュース解説は、メキシコから国境を越えてアメリカの学校に通う子どもたちを取り上げます。アメリカへの入国審査が厳しいため毎朝4時に起きて通う小学生や、ヒッチハイクで車の荷台に乗って帰宅する高校生ら、たくましく学ぶ姿を紹介します。

衆院議員3人再始動 ㊦

激戦終えた道10区

自民 比例4選しこり残す

引退する覚悟

[illegible]

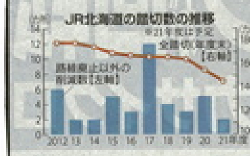
組織力低下も

[illegible]

JR、踏切削減を推進

5年で26カ所 コスト、事故減強調

廃止なら迂回 反対する自治体も



[illegible]